

保険・年金
フォーカスドイツの民間医療保険及び
民間医療保険会社の状況(1)
—2022年結果—

保険研究部 研究理事 中村 亮一
TEL: (03)3512-1777 E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1—はじめに

ドイツの民間医療保険及び民間医療保険会社を巡る状況については、基礎研レポート「[ドイツの医療保険制度\(2\)—公的医療保険の保険者との競争環境下にある民間医療保険及び民間医療保険会社の状況](#)」(2016.4.4)の中で、その現状と国全体の医療保険制度の中での位置付けの全体像について、2014年ベースの数値に基づいて、報告した。その後、毎年¹の保険年金フォーカスにおいて、直近の状況について報告してきた。昨年は「[ドイツの民間医療保険及び民間医療保険会社の状況\(1\)—2021年結果—](#)」(2023.4.11)及び「[ドイツの民間医療保険及び民間医療保険会社の状況\(2\)—2021年結果—](#)」(2023.4.14)において、2021年ベースの数値に基づいて報告した。

今回と次回のレポートは、基本的にはこれらのレポートを2022年ベースに更新したものである²。まずは、今回のレポートでは、民間医療保険の普及状況について報告する。

2—民間医療保険の普及状況(1)—被保険者数—

この章では、民間医療保険の普及のうちの被保険者数の状況について報告する。

1 | 代替医療保険

民間医療保険連盟(PKV)の資料に基づくと、次ページの図表が示すように、2022年(末)において、公的医療保険を代替する代替医療保険¹のうち、完全医療保険¹の被保険者数が870万人、介護保険の被保険者数が919万人となっている。ともに、ここ数年間、前年に比べてほぼ横ばいないしは

¹ ドイツの医療保険制度全体の概要及びその中での民間医療保険の位置付けや各種の制度の具体的な内容等については、基礎研レポート「[ドイツの医療保険制度\(1\)~\(3\)](#)」(2016.3.15~2016.4.18)を参照していただきたい。

² 以下の図表については、基本的には、ドイツ保険協会(GDV)の「Statistical Yearbook of German Insurance 2022」及び民間医療保険連盟(PKV)の「Zahlenportal: www.pkv-zahlenportal.de」からの数値に基づいている。両者の数値は必ずしもベースが同じにはなっていない。また、PKVをデータ・ソースとするGDVの資料についても、GDVの資料に基づく、としている。なお、GDVの資料で必ずしも数値の整合性が取れていないと思われるものについても、原資料の数値を尊重した。

減少し続けている。

代替医療保険の被保険者数 (単位:万人)

	完全医療保険	介護保険
①2021年	871.75	921.37
②2022年	870.45	918.77
③ ②-①	▲1.30	▲2.60

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。

公的医療保険と民間医療保険の間の移動状況については、以下の図表の通りとなっている。

- ・2011年までは、民間医療保険への流入超過であったが、公的医療保険の加入要件等の制度変更の影響もあり、2012年からは公的医療保険への流出が上回っていた。
- ・ただし、2015年までの3年間に高い水準で流出していたのに比べると、2016年及び2017年の流出数はそれぞれ1.5千人及び3.7千人で、大きく減少していた。
- ・2018年はさらに民間医療保険への流入が増加し、7年ぶりに流入が流出を若干上回った。2019年には、民間医療保険への流入がさらに13.2千人増加して146.9千人となり、流出を17.4千人上回った。2020年には、民間医療保険への流入は145.0千人で、流出を20.2千人上回った。2021年には、民間医療保険への流入は引き続き146.5千人と高水準で、流出を23.3千人上回った。
- ・2022年には、民間医療保険への流入が146.5千人と前年と同水準ながら引き続き高水準であったのに対して、公的医療保険への流出が対前年減少したことから、純増は30.1千人となった。

公的医療保険と民間医療保険の間の移動状況

(単位:千人)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
①公的→民間	233.7	244.9	288.2	227.7	232.0	159.9	123.9	115.5
②民間→公的	154.7	151.0	146.5	153.2	157.6	162.4	161.2	145.7
③ ①-②	79.0	93.9	141.7	74.5	74.4	▲2.5	▲37.3	▲30.2

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
①公的→民間	120.4	129.1	129.3	133.7	146.9	145.0	146.5	146.5
②民間→公的	140.2	130.6	133.0	132.9	129.5	124.8	123.2	116.4
③ ①-②	▲19.8	▲1.5	▲3.7	0.8	17.4	20.2	23.3	30.1

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。

(1)完全医療保険

完全医療保険には、2022年でドイツ国民の約1割にあたる870万人が加入している。

また、完全医療保険の被保険者の構成は、以下の図表の通りとなっており、①財政支援³を受けている公務員やその家族等が約半分を占めており、②男性が5割、女性が3割強、子どもが2割弱の構成比となっている。

完全医療保険の被保険者構成(2022年)

(単位:万人)

	男性	女性	子ども	合計
財政支援有 (構成比)	179.00 (20.56%)	189.08 (21.72%)	90.82 (10.43%)	458.90 (52.72%)
財政支援無 (構成比)	249.35 (28.65%)	94.91 (10.90%)	67.29 (7.73%)	411.55 (47.28%)
合計 (構成比)	428.35 (49.21%)	283.99 (32.63%)	158.11 (18.16%)	870.45 (100.00%)

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。

³ 公務員やその配偶者、子ども等は、医療給付等に対して、連邦政府や地域や地方当局からの財政的な支援が行われる。

(2)介護保険

介護保険の被保険者数は2022年において918万人で、完全医療保険に比べて約50万人多い。これは、ドイツポスト（Deutsche Post AG）やドイツ鉄道（Deutsche Bahn AG）の職員が含まれてくることによる影響が大きい。

2 | 付加医療保険

一方で、公的医療保険に対する付加的な保障を提供する付加医療保険¹の被保険者数⁴は、以下の図表か示すように、2022年で2,291万人となっており、追加の医療保障ニーズへの高まりを反映して、2021年に比べて約71万人増加している。

さらに、商品別にみても、外来付加保険が871万人、病院付加保険が656万人、歯科治療保険が1,844万人となっている。2021年との比較では、各保険とも順調に増加してきているが、特に、歯科治療保険が増加率でも3.4%と最も高くなっている。

付加医療保険の被保険者数 (単位: 万人)

	外来付加保険	病院付加保険	歯科治療保険	付加医療保険
①2021年	850.62	644.19	1,783.10	2,219.65
②2022年	870.63	656.08	1,844.32	2,290.87
③ ②-①	20.01	11.89	61.22	71.22

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。各保険の数値の合計が付加医療保険の数値になっているわけではない。

(参考) 被保険者数の増加率の推移

ここ10年間の被保険者数の増加率の推移をみると、完全医療保険と介護保険については常にマイナスで、被保険者数が減少してきている。一方で、付加医療保険についてはプラスを維持して、被保険者数が増加してきている。また、その増加率についても、2016年までは逡減傾向にあったが、2017年に反転してからは回復傾向にあり、2018年以降は2%以上の水準となっている。なお、完全医療保険と付加医療保険の合計の被保険者数の増加率も、付加医療保険の増加の影響により、回復傾向を示してきていたが、2022年の増加率は、付加医療保険の増加率と同様に対前年若干低下した。

民間医療保険の被保険者数の増加率 (単位: %)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
完全医療保険	▲ 0.74	▲ 0.63	▲ 0.53	▲ 0.17	▲ 0.22	▲ 0.20	▲ 0.04	▲ 0.10	▲ 0.07	▲ 0.15
付加医療保険	2.04	1.87	1.76	1.27	1.74	2.00	2.49	2.90	3.85	2.61
合計	1.26	1.20	1.15	0.89	1.26	1.46	1.85	2.32	2.87	1.97
介護保険	▲ 0.85	▲ 0.68	▲ 0.62	▲ 0.41	▲ 0.52	▲ 0.43	▲ 0.24	▲ 0.27	▲ 0.27	▲ 0.28

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。

3 | 基本タリフ¹

2009年1月から、(代替医療保険を提供する)民間医療保険会社は、公的医療保険の給付サービスに相当する「基本タリフ (Basistarif)」⁵を提供しなくなってきた。基本タリフは、民間医療保険連盟が保険監督法に基づいて設計している業界共通の統一料率商品であり、①加入時の年齢別に

⁴ 1人の被保険者が複数の契約に加入している場合、複数カウントされる。

⁵ 国民皆保険を実現するための第1段階の措置として、2007年7月からは、「標準タリフ (Standardtarif)」の提供が義務付けられていたが、第2段階の措置として「基本タリフ (Basistarif)」が導入されることになった。

保険料が決定されるが、健康状態は加味されない、②保険料水準は公的医療保険の平均最高保険料を上回ってはならない、等の制約がある。

この基本タリフの2022年の加入者数は34,100人であり、前年に比べて200人減少している。2009年の設立当初から、大幅に増加している状況にはない。

なお、1994年に導入された「標準タリフ(Standardtarif)」の加入者数については、2022年において53,000人で、前年に比べて900人の減少となっている。

基本タリフへの加入状況(加入者の加入事由別内訳)

(単位:人)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	変化(2021→2022)	
						増加数	増加率
合計	32,000	32,400	33,600	34,300	34,100	▲200	▲0.58%
修正標準タリフから	1,700	1,600	1,500	1,400	1,200	▲200	▲14.29%
無保険者	12,900	12,900	12,900	12,700	12,600	▲100	▲0.79%
公的医療保険から	500	500	500	500	500	0	0.00%
同一保険会社の他の契約から	15,500	16,000	17,100	18,100	18,100	0	0.00%
他の保険会社の他の契約から	900	900	1,000	1,000	1,100	100	10.00%
その他の新規加入者	500	500	600	600	600	0	0.00%

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。

標準タリフへの加入状況

(単位:人)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	変化(2021→2022)	
						増加数	増加率
財政支援有	6,500	6,400	6,300	6,800	6,700	▲100	▲1.47%
財政支援無	44,800	45,000	46,300	47,100	46,300	▲800	▲1.70%
合計	51,300	51,400	52,600	53,900	53,000	▲900	▲1.67%

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。

3—民間医療保険の普及状況(2)—収入保険料及び給付額—

この章では、民間医療保険の普及のうちの収入保険料及び給付額の状況について報告する。

1 | 収入保険料

収入保険料は47,153百万ユーロ、うち代替医療保険が35,699百万ユーロ(完全医療保険が30,627百万ユーロ、介護保険が5,073百万ユーロ)、付加医療保険が10,551百万ユーロとなっている。このように、代替医療保険からの保険料が全体の約3/4を占めている。

なお、この民間医療保険の収入保険料水準は、公的医療保険の収入保険料の2割弱に相当している。

民間医療保険の収入保険料(商品別内訳)

(単位:百万ユーロ)

	代替医療保険			付加医療保険	特殊保険	合計
	完全医療保険	介護保険				
保険料(2022年)	35,699	30,627	5,073	10,551	902	47,153
(構成比)	(75.7%)	(65.0%)	(10.8%)	(22.4%)	(1.9%)	(100.0%)

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。

「特殊保険」は、海外旅行健康保険、一般的な保険の特定部分のみをカバーする保険、補助金代替保険等

ドイツ保険協会(GDV)の資料に基づく、2022年の収入保険料は、対前年3.9%増加している。

この増加率は、2012年から、過去において批判が増加していた導入的タリフ(Einsteigertarifen:

Starter tariffs)⁶の販売推進を止めたこともあり、2014年までの5年間毎年低下してきていた。2015年は増加率を若干反転させたが、2016年は再び低下、2017年は、徐々に高い増加率となったが、2018年は再び1.8%の伸びに鈍化していた。2019年以降は再び反転して、増加率を高めてきていたが、2022年の増加率は対前年1.9%ポイント低下して、3.9%となった。

民間医療保険の収入保険料の推移

(単位:百万ユーロ)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
保険料 (増加率)	39,049 (4.8%)	39,804 (1.8%)	41,024 (3.1%)	42,894 (4.6%)	45,400 (5.8%)	47,153 (3.9%)

(※)民間医療保険連盟の資料に基づく。

商品別の状況を見てみると、介護保険や介護付加保険が他の商品に比べて、相対的に高い増加率を示している。

民間医療保険－収入保険料の商品別内訳の推移－

(単位:百万ユーロ)

	1990年	2000年	2010年	2022年	保険料年平均増加率		
					1990-2000	2000-2010	2010-2022
①医療保険会社全体	9,546	20,712	33,270	47,067	8.1%	4.9%	2.9%
代替医療保険	6,435	15,729	26,168	35,699	9.3%	5.2%	2.6%
完全医療保険	6,435	13,722	24,072	30,627	7.9%	5.8%	2.0%
介護保険	-	2,009	2,096	5,073	9.9%	0.4%	7.6%
付加医療保険	3,111	4,532	6,407	10,551	3.8%	3.5%	4.2%
公的医療付加保険	1,619	2,858	4,338	6,706	5.8%	4.3%	3.7%
傷病給付金保険	725	896	1,019	1,122	2.1%	1.3%	0.8%
疾病給付金保険	767	778	611	445	0.1%	▲2.4%	▲2.6%
介護付加保険	-	-	439	2,278	-	20.9%	14.7%
特殊保険	-	449	696	902	6.9%	4.5%	2.2%
②保険会社全体	69,888	131,335	178,844	223,302	6.5%	3.1%	1.9%
③医療保険会社分の比率(①/②)	13.7%	15.8%	18.6%	21.1%	-	-	-

(※)ドイツ保険協会(GDV)の資料に基づいて、民間医療保険連盟の分類に再構成(筆者作成)。

なお、医療保険の収入保険料は、生命保険・損害保険を含めた保険会社全体の収入保険料223,302百万ユーロの約2割に相当しているが、医療保険に対するニーズの高まりを反映して、過去30年間で、この比率は徐々に増加してきている。

民間保険会社における医療保険の位置付け(医療保険会社の収入保険料シェア)

(単位:百万ユーロ)

	収入保険料				シェア			
	1990年	2000年	2010年	2022年	1990年	2000年	2010年	2022年
保険会社全体	69,888	131,335	178,844	223,302	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
生命保険会社	27,403	61,225	90,355	97,111	39.2%	46.6%	50.5%	43.5%
医療保険会社	9,556	20,712	33,270	47,067	13.7%	15.8%	18.6%	21.1%
損害保険会社	32,939	49,398	55,219	79,124	47.1%	37.6%	30.9%	35.4%

(※)ドイツ保険協会(GDV)の資料に基づく。元受保険会社のみ。2022年は暫定数値。

2 | 給付額

総給付額(老齢化積立金(生命保険の責任準備金に相当)への繰入額や保険料返還を含む)の推移は、次ページの図表の通りとなっている。以前は、老齢化積立金への繰入額の増加率が相対的に高か

⁶ 限定された給付水準で、低い保険料水準からスタートして、その後保険料が増加していく商品

ったが、ここ数年間は、高齢化の影響等もあり、老齢化積立金への繰入額の伸びは低くなってきている。なお、将来の保険料軽減等に使用されるための準備金である RfB (Rückstellung für Beitragsrückerstattung) への繰入額は 44 億ユーロとなっている。

民間医療保険—給付額の内訳—

(単位:百万ユーロ)

	1990年	2000年	2010年	2022年	年平均増加率		
					1990-2000	2000-2010	2010-2022
総給付額	9,504	24,087	38,612	50,547	9.7%	4.8%	2.3%
給付額	7,325	13,815	22,171	33,385	6.6%	4.7%	3.5%
RfB繰入	584	2,861	3,760	4,462	17.2%	2.8%	1.4%
老齢化積立金繰入	1,595	7,410	12,681	12,253	16.6%	5.5%	0.0%

(※) 民間医療保険連盟(PKV)の資料に基づく。なお、2021年の数値は、内訳の数値の合計が総給付額の数値に一致していない。

保険種類別では、医療費用保険(完全医療保険等)が全体の9割近くを占めているが、近年は介護保険の給付額の増加率が高くなっている。

民間医療保険—給付額の内訳(保険商品別)—

(単位:百万ユーロ)

	2000年	2010年	2022年	年平均増加率		2022年におけるシェア
				2000-2010	2010-2022	
医療保険全体	13,614	21,915	33,385	4.9%	3.6%	100.0%
医療費用保険	11,912	19,196	29,666	4.9%	3.7%	88.9%
傷病給付金保険	-	840	897	-	0.5%	2.7%
疾病給付金保険	-	504	392	-	▲2.1%	1.2%
介護保険	471	698	2,430	4.0%	11.0%	7.3%

(※) 民間医療保険連盟(PKV)の資料に基づく。

介護保険以外の医療保険の給付タイプ別のシェアでは、通院給付が5割弱で最も高く、入院給付が3割弱で続き、歯科治療給付は15.7%を占めている。

民間医療保険(長期介護保険以外)—給付額の内訳(給付タイプ別)—

(単位:百万ユーロ)

	2000年	2010年	2022年	年平均増加率		2022年におけるシェア
				2000-2010	2010-2022	
医療保険全体	13,143	21,216	30,956	4.9%	3.2%	100.0%
通院給付	5,265	9,556	14,789	6.1%	3.7%	47.8%
入院給付	4,662	6,425	8,739	3.3%	2.6%	28.2%
歯科治療給付	1,852	3,214	4,865	5.7%	3.5%	15.7%
その他	1,363	2,019	2,563	4.0%	2.0%	8.3%

(※) 民間医療保険連盟(PKV)の資料に基づく。

直近で判明している2021年ベースの医療保険の給付額(老齢積立金繰入を含む)52,352百万ユーロは、生命保険・損害保険を含めた保険会社全体の給付額の23.0%に相当している。

民間保険会社における医療保険の位置付け(医療保険会社の給付額シェア)

(単位:百万ユーロ)

	収入保険料				シェア			
	1990年	2000年	2010年	2021年	1990年	2000年	2010年	2021年
保険会社全体	71,253	152,534	189,253	227,568	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
生命保険会社	34,909	88,080	107,361	143,385	49.0%	57.7%	56.7%	63.0%
医療保険会社	9,504	24,050	38,612	52,352	13.3%	15.8%	20.4%	23.0%
損害保険会社	26,840	40,404	43,281	63,476	37.7%	26.5%	22.9%	27.9%

(※) ドイツ保険協会(GDV)の資料に基づく。元受保険会社のみ。なお、生命保険会社についての2020年数値は、2019年までの数値とは対象が異なり、過去との比較ができない。

(参考) 医療保険普及率の国際比較

ドイツの民間医療保険の普及率を、一人当たりの保険料及び対 GDP 保険料比率で見ると、以下の図表の通りとなっており、保険密度を示す一人当たりの保険料は 558 ユーロ、普及率を示す対 GDP 保険料比率は 1.22%となっている。

なお、これを EU(欧州連合)の加盟国間で比較してみると、欧州保険業界団体の Insurance Europe の最新公表数値である 2020 年ベースでは、①一人当たりの保険料は 516 ユーロで、オランダの 3,111 ユーロ、スイスの 1,249 ユーロ、ルクセンブルグの 790 ユーロに次いでおり、②GDP 保険料比率は 1.27%で、オランダの 6.80%、スイスの 1.64%、スロベニアの 1.42%、フランスの 1.30%に次いでいる。

医療保険の普及率等は、公的医療保険制度との役割分担が大きく影響しており、民間医療保険に大きく依存しているオランダやスイスが高いものとなっているが、ドイツもこれらに次ぐ国となっている。

民間医療保険—普及率の推移—

(単位:ユーロ)

	2000年	2010年	2013年	2016年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
一人当たりの保険料	252	407	446	451	479	493	516	545	558
対GDP保険料比率	0.98%	1.29%	1.28%	1.19%	1.19%	1.19%	1.27%	1.26%	1.22%

(※)ドイツ保険協会(GDV)の資料に基づく(2022年は暫定数値)。

4—まとめ

以上、ドイツにおける民間医療保険の普及状況について、基本的には 2022 年数値に基づいて報告してきた。

ドイツの民間医療保険は、公的医療保険制度の代替をその主たる機能としつつ、高まる医療保障ニーズに対応する観点から、補完及び補足的な機能を充実させることで、着実に保険料を増加させ、その位置付けを高めてきている。

次回のレポートでは、民間医療保険会社の市場シェア、経営効率及び財務面の状況について報告する。

以 上